モ疼痛著シク輕減シ頭痛齒痛去リ食思振フ九日ニ至リ腫脹殆ンド去リ疼痛消失ス

◎分娩時ニ於ケル「シユナイテルリン」氏「スコポラミン」「モルヒン」ノ應用ニ就テ

廣島病院婦人科
池田　寧述

分娩時ニ於テ產婦ニ大ナル苦痛且ツ疲勞ヲ感ゼシムルハ分娩痛ナリ此ハ胎兒娩出ニ必要ナル陳痛即チ定期性ニ來ル子宮收縮ニヨリテ子宮筋實質中ニ分布スル末稍神經ノ壓迫ニヨリ疼痛トナリテ產婦ニ自覺スルモノナリ、故ニ分娩痛ノ强弱ハ陳痛ノ强弱ニ關ス、然シ陣痛ノ感覺及ビ發起ハ甚ダシク個人的ニ不同アリ多數ノ婦人特ニ初產婦ニアリテハ號泣苦悶ヲ極ムルモ他ノ婦人ニアリテハ殆ンド只輕キ呻吟ヲ發スルニ過ギザルモノアリ、然シ此ノ機轉ハ全ク無痛性ニ經過スルガ如キハ未ダ實見セザル所ナリ、故ニ古來ヨリ此レガ苦痛ヲ緩解セシメ且ツ陳痛ニ些少ノ障害ナカラシムルノ目的ヲ以テ麻醉藥特ニ「コロヽホルム」ノ發見以來此レノ目的ニ應用セラレシモ其ノ大量ハ鎭痛ニ伴フテ胎兒娩出ニ必要ナル陳痛作用ヲ微弱ナラシムルカ或ハ全ク此レヲ抑制シ且ツ腹壓ヲ全然絕滅セシム、カク其ノ効ト其ニ分娩ニ缺クベカラザル陳痛ヲモ障害セシム、其ノ他「ブロームエチール」酸化窒素、抱水「コロラール」、阿片等モ亦用ヰラレシモ其ニ吾人ノ要求ヲ充タスコト能ハズ、又局所麻醉藥トシテ「コカイン」ノ局所塗布又ハ膣球トシテ用ヰラレシモ其ノ効僅カ數分ニシテ消失シ其ノ作用モ亦著シカラズ、尙近來「コカイン」ノ腰髓麻醉法發見セラレシモ此レ亦副作用ノ存スルアリテ賞用スルニ足ラズ、故ニ現今尙其目的ヲ達スベキ特獨ノ藥劑ナカリシニ頃日「シユナイデルリン」氏「スコポラミン」「モルヒン」麻醉法發見以來外科ニマレ婦人科ニマレ一般手術ノ麻醉ニ賞用セラル、ニ至レルニ亦「ガウス」氏始メテ此レヲ分娩時ニ應用シ其ノ好成績ヲ得タルコトヲ發表セラレタリ余モ亦淺學ヲ顧ミズ此レガ實見數十例ヲ得タリ

作用　「スコポラミン」「モルヒン」ノ一筒ヲ注射スルニ各個人ニヨリ多少差異アルモ一定ノ短時間ヲ經テ始メ產婦ハ疲勞ヲ感シ次テ睡眠ヲ催シ陳痛間歇時ニハ睡眠シ發

作時ニ醒覺ス此ノ時期ニ於テ陳痛ヲ疼痛トシテ感ズルモ其ノ強度ハ自他覺ニ著シク減退スルヲ認ム、後暫時其ノ作用進ムニ從ヒ口歇、口腔咽頭乾燥ノ感顔面潮紅ヲ呈ス如斯時期長ク係續スルカ或ハ更ニ注射スル時ハ睡眠ハ益々深厚トナリ産婦ハ陳痛發作ノ際ニモ醒覺セズシテ唯顔面筋ノ收縮或ハ輕度ノ疼痛發作ノ表情ニ依リ陳痛ノ存在ヲ示スノミ此ノ時腹部ヲ診スルニ子宮ハ收縮硬固トナリ陳痛發作ノ明カニ存スルヲ示ス

用量並ニ用法

處方例

「ブロームム」水素酸「スコポラミン」　〇、〇〇三

鹽酸「モルヒヲ」　〇、〇六

餾水　六、〇

右一、〇乃至二、〇ヲ一回又ハ二回ニ注射ス

注。本液ハ製劑久シキ時ハ其ノ効不確實トナル故ニ必ズ使用前新調スベシ

本劑使用ノ時期ハ何時ニテモ可ナリ然シ余ハ通例分娩初期ニ於テハ産婦モ大ナル苦痛ナキヲ以テ苦痛ノ稍々高マル第一期即チ開口期ノ終リ又ハ第二期ノ始メ即チ破水後直チニ其ノ一筒ヲ注射セシ然シ尚分娩經過長ク持續シ苦痛甚タシキ時ハ尚一定時ノ後一筒乃至半筒ヲ注射スルモカヽルコトハ余ノ實見ニヨルニ甚ダ稀レナリ

第一例　無職　佐々木ヒデ（二十五歳）

既往症　生來健全著患ヲ知ラズ十五歳ノ三月月華開キ爾來正調十九歳ノ一月ニ婚ス夫ハ健ニシテ著患ナシ二十歳ノ四月分娩セシモ分娩經過頗ル遲延セシタメ死胎兒ヲ分娩セリト而シテ其ノ后著患ナク明治四十年十月十九日ヨリ三日間月經常ノ如ク爾來月經潮來ナク後三ケ月位ヲ經テ時々嘔氣ヲ催セリ依テ産婦始メテ姙娠ニアラザルカノ疑ヒヲ起セリ越ヘテ明治四十一年三月二十五日頃初メテ胎動ヲ感ジ爾來全身ニ異常ナク經過セシモ第一回ノ分娩遲延セシニ恐レ七月二十日本院ニ入院セリ二十九日午後九時頃ヨリ下腹緊滿、薦骨部ニ疼痛ヲ覺エ三十日午後零時三十分頃ヨリ時々陳痛發起セリ

診斷（明治四十一年七月三十日午後一時）

一、經産婦

二、姙娠第十ケ月ノ末期ニシテ已ニ分娩第一期ニ入レリ

三、第一後頭位ニシテ先進部ハ已ニ骨盤入口ニ固定ス

四、子宮內胎兒ハ生存ス

骨盤外計測所見

骨盤周圍	八十仙迷
腸骨前上棘間距離	二十四仙迷
腸骨櫛間最遠距離	二十六仙迷
外直徑線	十九仙迷
外斜徑線	二十一仙迷
大轉子間距離	二十六、五仙迷

分娩經過　七月三十日午后一時始メ陳痛發作著シカラザリシガ排便排尿后着シク發起スルニ至レリ此ノ時內診セシニ先進部ハ固ク骨盤上口ニ固定シ胎胞成立シ緊張ス特ニ陳痛發作時ニ甚ダシ子宮口ハ經約「五センチメートル」開大セリ

午后二時十五分破水ス直チニ內診スルニ子宮口ハ全開大セリ小部分ノ脫出ナク胎兒先進部ハ深ク骨盤內ニ嵌入シ產瘤著明ナラズ失狀縫合ハ第一斜徑線ニ一致シ小顱門左方ニアリ破水后陳痛發作頻發シ爲メニ產婦大ニ苦悶スルニ至レリ依リテ「スコポラミン」「モルヒン」ノ一筒ヲ上膊ニ注射セシニ午后二時三十分頃ニ至リ產婦ハ大ニ安靜トナリ苦悶狀ナク睡眠スルニ至レリ然レドモ陳痛ハ尙依然トシテ頻發シ發作極期ニ於テ僅カニ醒覺スルモ產婦自ラ殆ンド疼痛ヲ覺エザルガ如シ

午后二時五十分頃後頭排臨シ五十三分發露シ約二分間位ニシテ後頭位第一胎向ノ分娩機轉ヲ以テ兒頭娩出シ次テ肩胛全身娩出セリ此ノ間產婦僅微ノ苦痛ナク安靜ニ娩出ヲ終ヘタリ胎兒娩出后子宮收縮佳良ニシテ子宮底ハ殆ント臍高ニアリ臍帶ハ胛ニヨリ切斷セリ

午后三時二十分頃胎盤娩出シ子宮底ハ下リテ臍ト耻骨縫合トノ中央ニアリ其ノ后ノ經過良好ナリキ

胎兒ハ男性良ク發育シ畸形等ナカリキ　（頭圍 三四仙米　身長 五二仙米　体重 三四五〇瓦）

第二例　車夫ノ妻　大畑ヒサ（二十九歲）

既往症　生來健全著患ナシ十八歲ノ十月月經潮來シ爾來正調二十八歲ノ八月結婚ス夫ハ健全ナリト產婦未ダ分娩セシコトナシト而シテ終經ハ明治四十一年一月十六日ヨリ五日間常ノ如シ其ノ后二三ケ月ヲ經テ輕度ノ嘔氣ヲ催セシコトアリシモ醫治ニヨラズ日ナラズシテ治セリト其ノ后全身ニ異常ナカリシモ漸次下腹部膨大シ七月下旬初メテ胎動ヲ感ゼシト越ヘテ十月二十五日午前二時頃ヨリ下腹痛腰痛ヲ覺エ同時ニ少許ノ液ヲ漏ラセリト

診斷（明治四十一年十月二十五日午前七時三十分）

一、初產婦

二、妊娠等十ケ月ノ末期ニシテ已ニ分娩第一期ニ入リ早期破水セルモノナリ

三、第一後頭位ニシテ先進部尙固定セズ

四、子宮內胎兒尙生存ス

骨盤外計測所見

骨盤周圍　七十六仙迷

腸骨前上棘間距離　二十二、五仙迷

腸骨櫛間最遠距離　二十五仙迷

外直徑線　十九仙迷

外斜徑線　二、五仙迷

大轉子間距離　二十七仙迷

分娩經過　十月二十五日午前七時三十分陳痛發作著名ナラズ內診スルニ外陰部形狀通常膣粗織鬆粗ニシテ注目スベキ浮腫靜脈瘤等ナク尙軟部產道及ビ骨部產道ニ異常ヲ認メズ子宮口ハ約二錢銅貨大ニ擴大シ先進部ノ固定十分ナラズ体位變換ニヨリ少許ツヽ羊水ヲ漏ラス直チニ排便排尿セルモ陳痛尙依然トシテ著シカラズ胎兒心音ハ尙著明ニ聽取シ正調ニシテ心音ニ異常ナシ午前九時所見ト大差ナシ陳痛ハ殆ンド發起セズ

正午十二時尙依然トシテ分娩進行セズ

午後一時二十分人工排尿ヲ行フ陳痛僅カニ發起スルニ至レリ

午后二時四十分內診スルニ子宮口ハ殆ント擴大セシモ尙僅カニ子宮口唇ヲ觸知スル胎兒先進部ハ已ニ深ク骨盤腔內ニ固定シ失狀縫合ハ僅カニ橫徑線ト交叉シ小顱門ハ僅カニ左前方ニ向ヒ產瘤ハ著シク大トナリ彈力性ニ富ミ緊張ス

午后四時三十分陳痛發作稍々衰ヘ分娩經過尙前所見ト大差ナシ依リテ腹部ニ溫罨法ヲ施行セリ

午后五時三十分內診スルニ子宮口ハ全開大シ兒頭ハ已ニ深ク嵌入シ小顱門前方ニ回轉シ左前方ニアリ產瘤著シク大ナリ胎兒心音尙異常ナシ（五秒時ニ一一、一一、一二）

午后六時三十分陳痛發作發起スルモ兒頭ノ進行尙依然タリ然シ產婦ハ大ニ苦痛ヲ訴ヘ苦悶甚ダシ依リテ「スコポラミン」「モルヒン」ノ一筒ヲ注射セシニ約十五分ニシテ產婦安靜トナリ時ニ睡眠ス然レドモ陳痛ハ前ト變化ナシ胎兒心音尙異常ナキガ如シ

午后七時外陰部僅カニ浮腫狀ヲ呈シ壓迫症狀現ハレシヲ以テ直チニ鉗子娩出術ニヨリ娩出セシメタリ胎兒娩出后

子宮收縮佳良ニシテ子宮底ハ僅カ臍ヨリ高シ臍帶ハ成規ニ切斷シ后十五分位ニシテ胎盤娩出シ其ノ后子宮ノ收縮佳良ニシテ子宮底ハ臍下約三指横徑ノ所ニ下レリ其ノ間產婦殆ンド苦痛ナク分娩後一睡シ時經テ醒覺シ始メテ分娩ノ終リシヲ自覺セリ其ノ後產褥經過良好ナリキ

胎兒ハ男性發育佳良畸形ナシ（頭圍 三三仙迷　身長 五〇仙迷　体重 三一〇〇瓦）

第三例　無職　佐藤ヒデ（二十六歳）

既往症　生來健全十六歳ノ三月初經開キ六ケ月間潮來セザリシガ爾來正調二十三歳ノ九月結婚ス夫ハ健產婦未ダ一回モ分娩セシコトナシト終經ハ明治四十一年二月二日ヨリ三日間常ト變化ナカリキ二三ケ月ノ後輕度ノ嘔氣ヲ僅セシコトアリト後漸次下腹部膨大スルニヨリ姙娠ニアラザルカノ疑ヒヲ起セシガ六月下旬ニ至リテ初メテ胎動ヲ感ゼリト其ノ後異常ナク經過セシガ十一月十七日午前四時頃突然薄キ透明液約一合位ヲ漏ラセリト

診斷（明治四十一年十一月十七日午前七時三十分）

一、初產婦

二、姙娠第十ケ月ノ末期ニシテ分娩第一期ニ入リ已ニ早期破水セルモノナリ

三、第一後頭位ニシテ先進部已ニ固定ス

四、子宮內胎兒ハ尙生存ス

骨盤外計測所見

骨盤周圍	八七仙迷
腸骨前上棘間距離	二四仙迷
腸骨櫛間最遠距離	二六、五仙迷
外直徑線	二〇、五仙迷
外斜徑線	二三仙迷
大轉子間距離	二九仙迷

分娩經過　十一月十七日午前七時三十分陣痛發作著シカラズ內診スルニ子宮口ハ約二錢銅貨大ニ開大シ先進部ハ固定セリ直チニ排便排尿セシニ陣痛發作頻發スルニ至レリ

午前八時三十分陣痛益々强勢トナリ產婦タメニ苦悶甚ダシ依リテ直チニ「スコポラミン」「モルヒン」ノ一筒ヲ注射セシニ約十分ニシテ安靜トナリ睡眠ヲ催シ殆ンド苦痛ヲ感ゼザルガ如シ然シ陣痛ハ尙依然トシテ發起ス

午前九時子宮口ハ殆ンド開大シ僅カニ子宮口唇ヲ觸知スルノミ胎兒失狀縫合ハ骨盤ノ横徑ニ一致シ產痛ハ膨大緊張シ彈力性ニ富ム

午前九時三十分陣痛發作佳良內診スルニ小顖門ハ前方ニ、

回轉セリ

午前十時排臨次テ發露セシニ臍帶頸部及ビ右上肢ニ纏絡セリ依リテ直チニ之レヲ解キシニ全身容易ク娩出セリ子宮收縮可良ニシテ子宮底ハ暗高ニアリ胎兒ハ產道ニ於テ臍帶壓迫ノ爲メ假死ニ落入レリ依リテ直チニ臍帶ヲ切斷シ人工呼吸法ニヨリ蘇生セリ

午前十時三十分頃胎盤娩出子宮底ハ下リテ臍下三指横徑ノ高サニアリ外陰部其ノ他ニ損傷等ナク其ノ后經過佳良ナリキ

胎兒ハ男性ニシテ發育佳良畸形ナシ（頭圍 三三五、仙迷 身長 五〇仙迷 体重 三一六零瓦）

第四例　職工ノ妻　丹羽ミノ（三十五歲）

既往症　遺傳ノ徵スベキ疾患ナク生來健全著患ヲ知ラズ十三歲ノ五月初メテ月華開キ持續三日間爾來正調二十歲ニシテ婚ス夫ハ健全ニシテ生殖器疾患ナシ產婦ハ已ニ五回分娩シ第三回ハ鉗子手術ヲ受ケシモ他ハ皆ナ醫師ノ介助ナク正規平滑ニ分娩セリト而シテ終經ハ明治四十一年五月十八日ヨリ二日間常ノ如シ后二三ケ月ニシテ時々嘔氣ヲ催セシコトアリト十月下旬始メテ胎動ヲ感シ其ノ后甚常ナカリシガ五日前排便時少量ノ薄キ透明液ヲ漏ラシ爾來間斷ナク少許ツヽ漏出ス依リテ某醫ニヨリ鉗子手術ヲ受ケタリト然レドモ其ノ効ナカリキト

診斷（明治四十一年二月二十一日午后五時）

一、經產婦

二、妊娠第十ケ月ノ末期ニシテ已ニ分娩第二期ニ入リシモノナリ

三、第一後頭位ニシテ先進部ハ骨盤腔內深ク嵌入シ殆ント骨盤擴部ヲ過ギタリ

四、子宮內胎兒ハ已ニ死亡セルガ如シ

骨盤外計測所見

骨盤周圍	七五仙迷
腸骨棘間距離	二五、五仙迷
腸骨櫛最遠距離	二十七仙迷
外直經線	二〇、五仙迷
外斜經線	二一、五仙迷
大轉子間距離	二十七、五仙迷

分娩經過　二月二十一日午后五時產婦疲勞甚ダシ陣痛發起スルモ胎兒尙進行セズ壓迫症狀稍々加ハルニ至レルニ尙產婦苦悶甚ダシ依リテ直ニ「スコポラミン」「モルヒン」ノ一筒ヲ注射セシニ約十分時ニシテ產婦安靜トナレリ而シテ后穿顱術ヲ行ヒ「クラニオクラスト」ヲ以テ胎兒

ヲ娩出セシメタリ始メ子宮收縮佳良ナリシガ漸次弛緩シ出血スルニ至レリ依リテ子宮底ヲ摩擦シ次テ「クレデー」氏ニヨリ胎盤ヲ壓出セシニ其ノ后子宮收縮佳良ナリシモ后憂ヲ慮ハリ麥角ヲ與ヘシニ其ノ后三日ニシテ發熱三十九度二分ニ至リシガ幸ヒ三日ニシテ平溫ニ復シ其ノ后良好ナル經過ヲ取レリ

胎兒ハ男性發育佳良畸形ナシ（頭圍三四仙迷　體重三四〇〇瓦　身長五二仙迷）

以下事ノ複雜ヲ省略センタメ表ヲ以テ左ノ概要ヲ示サン

號	姓名	年齢	分娩回數	妊娠月	胎兒位置	「スコポラミン」「モルヒン」ノ量	注射時期	作用	產褥經過
1	上田キク	二一	〇	十ケ月	第一后頭位	「スコ」〇、〇〇五「モヒ」〇、〇一	第一期ノ終リ	睡眠シ殆ント苦痛ナシ	良
2	田村ミツ	二〇	〇	全	全	全	全	全	全
3	田岡ミヨ	二三	一	全	第二后頭位	全	破水直后	僅カニ輕減セリ	全
4	寶藏ミツ	二〇	〇	全	全	全	第一期ノ終リナシ	殆ント一痛	全
5	井原クマ	二九	四	全	第一后頭位	全	破水直后	全ク苦痛ナシ	全
6	大友ナチ	三六	一	全	第二后頭位	全	全	殆ント苦痛ナシ	全
7	杉野サダ	二一	一	全	全	「スコ」〇、〇〇五「モヒ」〇、〇一五	全	僅カニ輕減セルノミ	全
8	森ユク	二七	一	全	第一后頭位	「スコ」〇、〇〇五「モヒ」〇、〇一	第一期ノ終リ	睡眠中ニ終ル	全
9	森田カヨ子	二六	一	全	全	全	全	殆ント苦痛ナシ	全 輕度ノ發熱アリシ
10	長山フサ	二三	〇	全	全	全	破水直后	全	全
11	梶川タキ	二七	二	全	第二后頭位	全	全	全	全
12	水田サト	二四	〇	全	第一后頭位	全	全	全ク苦痛ナシ	全
13	濱田リナ	二九	二	全	全	全	全	殆ント苦痛ナシ	全
14	羽多イト	二二	〇	全	第二后頭位	「スコ」〇、〇〇五「モヒ」〇、〇一五	全	全	全
15	中峰コヨ	二五	〇	全	全	「スコ」〇、〇〇五「モヒ」〇、〇一五	第一期ノ終リ	全	全
16	田村カメ	三〇	一	全	全	全	全	全	全
17	松谷チエ	二一	〇	全	第一后頭位	全	全	全	全
18	定岡ヤソ	四四	〇	全	第二后頭位	全	全	全	全
19	梶江リツ	二五	一	全	第一后頭位	全	破水直后	全	全
20	森島クマ	三一	四	全	全	全	全	全ク苦痛ナシ	全
21	福田リン	二七	二	全	全	全	第一期ノ終リ	殆ント苦痛ナシ	全
22	友田サキ	二二	〇	全	第二后頭位	全	全	全ク苦痛ナシ	全
23	向井エイ	二二	一	全	全	全	破水直后	全ク苦痛ナシ	全
24	西本マキ	三三	一	全	第一后頭位	全	全	殆ント苦痛ナシ	全
25	柏ミツ	三一	二	全	第二后頭位	全	全	睡眠中ニ終ル	全
26	吉澤セイ	二三	一	全	第一后頭位	全	全	全	全
27	藤井初代	四二	二	全	全	「スコ」〇、〇〇五「モヒ」〇、〇一	全	殆ント一痛ナシ	全
28	山本ミツ	三〇	二	全	全	〇	全	全	全
29	有田ユリ	二二	一	全	全	全	全	全	全
30	佐々木ミチ子	二七	一	全	全	全	全	全	全
31	半田カツ	三〇	二	全	第二后頭位	全	全	全	全
32	須村サダ	三七	一	全	第一后頭位	全	全	全	全

以上表中其ノ作用ノ不確實ナルモノヲ見ルニ「スコポ

ラミン」「モルヒン」液ノ陳舊ナルニ基因スルナランカ蓋シ本病院ニ於テハ「スコポラミン」「モルヒン」ト「コロヽホルム」トノ混合麻醉法ノ下ニ開腹術ヲ施行スルヲ例トシ手術前必ズ「スコポラミン」「モルヒン」液ヲ新調シ其ノ殘液ヲ以テ分娩時此レヲ使用セリ而シテ制劑后第四乃至第七日ヲ經過セシモノヲ使用シタル表中第三第七例ノ如キハ液ノ陳舊分解ノ結果ナランカ以后每常新調液ヲ使用セシニ常ニ好結果ヲ得タリ故ニ此レガ欠點ヲ補ハンニハ使用前必ズ新調セラルベシ

カヶ「スコポラミン」「モルヒン」ニヨリテ分娩ハ殆ンド無痛且ツ陣痛ニ些少ノ障害ナキガ如シ特ニ第二例ノ如キハ高齡ノ初產婦ニ加ヘテ子宮口尙十分開大セザルニ先ンジ早期破水セリカヽル場合分娩第二期ノ苦痛ハ經產婦スラ號泣苦悶スルモノ少ナシトセズ然ルヲ初產婦ニシテ分娩時殆ンド睡眠中ニ經過シ其ノ後ノ經過良好ナリシハ余淺學未ダカヽル例他ノ麻醉藥ニ實見セザル所ナリ故ニ余ハ本麻醉法ヲ以テ今日吾人ノ要求ヲ充タスニ十分ナルモノト確ク信ジテ疑ハザルナリ

結論　一、「スコポラミン」「モルヒン」ハヨク總テノ分娩時ニ應用シテ十分ナル鎭痛作用ヲ現ハシ分娩ニ必要ナル陣痛作用ニ些少ノ障害ナシ

二、分娩何レノ時期ニ此レヲ用ヰルモ常ニヨク鎭痛作用ヲ現ハスモ第一期ノ終リ即チ產婦ノ最モ苦痛ヲ感ズルノ前十五分時ニ此レヲ應用スルヲ可トナス

三、「スコポラミン」「モルヒン」ノ液ハ使用前新調セルモノヲ用ユベシ

四、副作用トシテハ產婦ノ輕度ノ口歇咽頭乾燥ノ感ヲ訴フル位ノミナリ他ニ不快ノ副作用ナシ

◎未曾有ノ特異素質ノ一例

康秉鉉

患者　康某　十八年(男)

本患者ハ哺乳動物即チ四足動物ノ肉ヲ喰スレバ烈キ腹痛ヲ發スル疾病ヲ有ス本症ハ韓國ニ於テハ甚ダ多キ病ニシテ日本ニ於テモ目下千葉縣立師範學校ニ於テ職員及生徒ノ內ニ數人ノ實例ヲ有ス然ルニ刀圭界ニ於テハ姑ダ何等ノ報告無キハ何故ゾ余思フニ患者自ラ疾病ト思ハズシテ醫療ヲ乞ハズ從テ醫師モ實見スル機會無キ爲ナラン

自覺的症狀ハ哺乳動物ノ肉ヲ食スレバ約三時間後ニ臍部